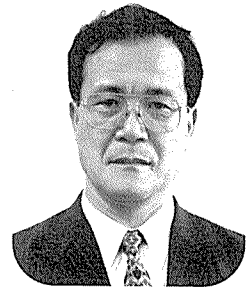


## ■ PC 製品認証システムの新たな構築



辻 幸 和\*

JIS マーク制度を、平成 17 年度からは現行の主務大臣の認定から「民間主導」と「市場経済原則」に基づいたものに移行するための整備が、現在活発に検討されている。製品認証システムが、大幅にとりいられる方向である。このシステムは、適合性を評価する民間の第三者の製品認証機関（登録機関）から出される認証書により、JIS に規定されている品質に適合している製品であることを保証するものである。

第三者機関の適合性評価機関による製品認証システムは、1995 年に発足した世界貿易機関（WTO）と同時にわが国も締結した「貿易の技術的障害に関する協定」のいわゆる TBT 協定に基づくものである。TBT 協定は、製品規格を含めたすべての規格の国際的な整合を図るとともに、製品の適合性を評価するシステムについても国際的に統一することにより、貿易の技術的障害をなくすることを主目的にしている。製品認証の基幹となる品質マネジメントシステムの認証は、ISO 9000 シリーズとしてわが国の建設分野においても急速に取得される会社が多くなってきた。このシステムが大規模工事等への入札資格になることが予想されているためである。

製品認証機関は、ISO 9000 シリーズの認証を受けている製造会社であれば、年に 1 回程度の審査を行って、製品が JIS の品質規格に適合していることを認証書の発行により保証する。なお、製品認証機関は、ISO / IEC ガイド 65（製品認証機関の能力に関する一般要求事項）によりその能力が審査されて、国際的にも認定されている。そして、

わが国では日本適合性認定協会（JAB）や規制当局がこのような国際規格等に則して認定している。独立性、公平性および適正な技術的能力が、第三者の認証機関に要求されているのである。

レディーミクストコンクリートについては、JIS マーク認定製品であるにもかかわらず、全国生コンクリート品質管理監査会議が平成 7 年 12 月に発足し、平成 9 年度より監査を実施して地区ごとに合格証を発行している。そして平成 12 年度からは、全国規模で㊦マークを発行して、生コンクリートの品質を認証している。産・官・学が一緒に参加して、品質保証活動を実施している。㊦マークは、JIS マーク認定制度のシステムに ISO 9000 シリーズの品質マネジメントシステムも加味した 110 項目程度の監査基準により、審査を行っているものである。そのため、平成 17 年度からの JIS マークの見直しに対応して、全国生コンクリート品質管理監査会議を法人化し、国際化に対応した製品認証機関に衣がえすることも検討されている。

プレストレストコンクリート（PC）に関連する製品としては、前述のレディーミクストコンクリートに加えて、PC 鋼材、鉄筋および PC 工場製品などがある。それらの品質が JIS に規定されていて、JIS マーク表示認定工場から製品を受け入れている。平成 17 年度からの製品認証制度に適切に対応するため、これらの PC 製品とともに JIS マークのない各種の定着装置や PC グラウトなどについても、製品認証機関による新たな PC 製品の適合性評価システムを構築することが、喫緊の課題となってきている。

\* Yukikazu TSUJI：本協会副会長，群馬大学 工学部 建設工学科教授